

安全安心を追求したまちづくり

～建設業者は地域の未来を形にするパートナー～

北竜台公園を再整備

昨年12月の市長選挙において、多くの支持を得て再選を果たした萩原勇氏。1期目はコロナ禍や物価高騰といった未曾有の困難に直面しながらも、対話とスピード感を重視した市政運営を展開してきた。2期目のスタートにあたり、萩原市長は「安全安心を追求し、住み続けられるまちを創る」をスローガンに掲げる。公園の活用や駅前整備、さらには「台の地下区」の開発など、龍ヶ崎市のポテンシャルを最大限に引き出す具体策を掲げる。もちろん、基幹産業である建設業界への期待も高い。市民の期待を一身に背負う萩原市長に、2期目の施政方針を聞いた。

■2期目の抱負

多くの市民から温かい支援とご支持をいただき、引き続き市政運営の重責を担うこととなった。改めて、その期待と信頼の重みをしっかりと受け止め、全力で市政運営に邁進する。

この2期目において、私が最も大切にしているのは、子供から若者世代、そして高齢者まで、このまちに住まう全ての人が、幸福を実感しながら笑顔で暮らし続けられるまちを、市民と一緒に創り上げていくこと。そのため、ライフステージに応じた「住み良き」と「幸福感」を追求していきたいと考えている。

そして、その土台になるのが、何よりもまず「安全・安心」だ。防災・防犯をはじめ、福祉や教育、都市基盤など、さまざまな分野での安全や安心が折り重なって、初めて市民の幸福感につながっていく。だからこそ、2期目の公約

スローガンとして、「安全と安心を追求し、住み続けられるまちを創る」を掲げた。特に人口問題を最重要課題として捉えている。人口減少局面は、行政サービスや地域経済、コミュニティの維持にも直結する。

一方で、これを正面から見据え、子育て・教育・まちの魅力・都市基盤を一体で磨き上げることであれば、「住み続けたい」「このまちで子育てをしたい」「将来も安心だ」という好循環を生むことができる。私の信条は『断固たる決意は不可能を可能とする』である。困難な課題が山積しているからこそ、諦めず、信念を持って挑戦を続け、市民の幸福度を高めたい。

■重点事業① 人口減少局面にある今こそ、本市が持つ潜在的なポテンシャルを最大限に引き出し、地域の活性化と住みやすさ



◆プロフィール◆

萩原 勇 (はぎわら・いさむ) 1975年(昭和50年)7月24日生まれの50歳。明治大学公共政策大学院修了。市議会議員、県議会議員を経て2022年から現職。趣味は料理で「子供が喜ぶので洋食をつくることが多い」とのこと。座右の銘は『断固たる決意は不可能を可能とする』。

の好循環を生み出すためのまちづくりに、積極的にチャレンジしていきたい。

その中でも、公園の魅力向上は重点事業の一つだ。特に高齢化が進む北竜台市街地において、北竜台公園を活用した賑わい創出などの活性化策を推進していく。公園は、単なる「緑地」や「遊具がある場所」ではない。子育て世代にとっては日常の居場所であり、高齢者にとっては健康づくりや交流の場であり、地域にとっても「コミュニティの核」にもなる。ここに賑わいが生まれることで、地域の安心感や愛着にもつながる。

また、公園を含めた公共空間の活用は、防災面でも重要だ。平時に多くの人が集まり、有事の際には避難行動や地域の支え合いにもスムーズにつながる。

学校跡地の活用も、行政資産の活用として、人口問題や地域「コミュニティ」の維持と密接につながるテーマだ。現在、跡地について市民と議論を重ねている。重要なのは、跡地を「何かに使うこと」そのものが目的化しないこと。地域の課題が何で、どの世代の暮らしをどう支えるのか、将来にわたって維持できるのか。そうした観点で、最適な形を選ぶ必要がある。

学校跡地のように地域にとって思い入れがある場所ほど、住民の皆さまの声を丁寧に聞き、合意形成を図りながら、暮らしの質を高める利活用につなげていく。重点事業は「安全・安心」を享受できる「住み続けられるまち」というゴールに向けて、暮らし・魅力・安全安心を一本の線で結んで進めていく。

■インフラ整備について

道路や公共施設、交通結節点などのインフラは、普段は当たり前のように使われているが、それが安全で快適であることが、住み良きの実感につながる。

具体的には、本市の玄関口である佐貫市街地において、JR龍ヶ崎駅前ロータリー改修事業を推進し、安全性と快適性を高めたい。ここをより安全に、より分かりやすく、市民の利便性向上だけでなく、まちの印象や活力向上にもつなげる。

さらに、駅周辺や「台の地下区」、幹線道路の沿道などの土地利用の可能性を真剣に検討していく。「台の地下区」は、駅から歩いて10分程度の場所に約30haもの広大なエリアが広がっている。このエリアをどう有効活用するかがまちの未来を左右する。民有地ではあるが、人が集まる仕掛けや、宅地開発、あるいは雇用を生むための開発など、常磐線という強力な交通インフラを活かした将来像を描き、検討を進めたい。

また、インフラは「造る」ことと同じくらい「守る」ことも重要だ。猛暑や豪雨などのリスクが高まる中で、公共施設の防災・減災対応や、災害時の危機管理体制の強化も欠かせない。

酷暑への対応として、子供たちの命と学びの環境を守ることを最優先に、小中学校体育館へのエアコン設置を全校一斉に進めている。これは避難所としての機能強化でもあり、広い意味での都市基盤の強靱化だ。

牛久沼の活用については、周辺市町村や県と連携し、まずは水質改善や環境整備を徹底する。その上で、道の駅整備予定地だった場所の一部を活用し、サップやウィンドサーフィンといった水上スポーツを楽しめるスポットや、安全な駐車場を整備したいと考えている。

■入札制度について

入札制度は、行政運営の根幹に関わるテーマであり、市民の信頼を確保するうえでも非常に重要だと認識している。

「住み良き」と「幸福感」の追求には、何よりもまず「安全・安心」を享受できる住環境を提供することが土台になる。

公共工事や公共施設の整備・維持管理は、その土台を具体的な形にする事業であり、入札・契約の在り方は、その品質や安全性、そして公正性を左右する。

手続きの公平性、透明性、適正性を確保することは当然の前提だが、公共工事は単に「安くは良い」という話ではなく、品質の確保、安全管理、工期の妥当性、地域の実情に即した施工体制など、結果として市民の安全・安心につながるものが最重要だと考えている。

入札制度は「公平で、透明で、適正であること」を掲げるが土台としながら、その先にある成果、すなわち市民の安全・安心につながる品質と持続可能性を確保する。この考え方で臨んでいきたい。

■建設業界へのメッセージ

建設業界の皆さまには、日頃から地域の安全・安心、そして市民生活の基盤を支えていただいていることに、心から敬意を表する。道路や公共施設の整備・維持管理はもちろん、災害が発生したときには復旧・応急対応の最前線に立っていただくことも多く、まさに地域を支える要となる存在だ。

先日、10年ぶりと言われるような大雪に見舞われた際、私は建設業界の皆さまの力強さを改めて実感した。夜通しで融雪機を働き、除雪作業に当たってくださったおかげで、翌朝には主要な道路の交通が確保されていた。こうした献身的な働きが、市民の日常生活を守っている。大雨や雪といった自然災害が激甚化する中で、重機を操り、現場を熟知した皆さまの存在には、まちの安全は語れない。

現場代理人の業務標準の緩和など、地元企業が受注しやすい環境づくりに努めてきた。現場で見えている課題、施工や維持管理の工夫、地域特性に合ったやり方など、行政が学ぶ点は多くある。困難な課題が山積する時代だからこそ、『断固たる決意は不可能を可能とする』という信条のもと、諦めずに挑戦を続ける。地域の未来を形にしていくパートナーとして、引き続きお力添えをお願いしたい。

地域の守り手として市勢発展に貢献いたします

龍ヶ崎市建設業組合

組合長 細谷 武史

副組合長 増川 剛

副組合長 寺本 富男

会計理事 櫻井 俊一

- | | | | | | |
|-----------|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 秋田工業(株) | 清原工業(株) | 櫻井建設工業(株) | (株)大松建設工業 | (株)平川建設 | 増川設備工業(株) |
| (株)イシダ | 栗山電気(株) | (有)三愛興業 | (株)寺本組 | 福智建設工業(株) | 谷田川建設(株) |
| (有)櫻文工業 | (株)興新建設 | 三協設備(株) | 常磐建設(株) | 細谷建設工業(株) | (株)柳建設 |
| (株)おおたけ建設 | コナン開発(株) | (株)セイビ | 長久保建設(株) | (有)本谷土建興業 | |
| 河村電気工事(株) | (株)桜井建材コーポレーション | 大昭建設(株) | (株)羽原工務店 | 増川建設(株) | |